

商工会青年部・田代さん

「商工会青年部主張発表会 会津地区大会」出場

「商工会青年部主張発表会会津地区大会」が4月26日にルネッサンス中の島で開かれ、只見町商工会青年部から田代尚大さんが、代表として出場しました。会津地区大会には、只見町商工会青年部の他に、湯川村商工会青年部、猪苗代町商工会青年部も参加し、それぞれが熱い思いを発表しました。

田代さんは「幽霊部員が表舞台に立つ ～地元で熱気を広げたい～」をテーマに主張を行いました。今号では、田代さんの主張をご紹介します。

「幽霊部員が表舞台に立つ ～地元で熱気を広げたい～」

私の只見町商工会青年部との関わりは今から10年前。Uターンで只見へ戻り、実家が民宿経営をしていたことで名前だけ登録する形で加入したのがきっかけでした。しかし、地元の会社に就職していたので、青年部の活動は直接関係がなく、自然と幽霊部員になっていました。

加入から7年も経過した3年前。Uターン後の生活もなじみ、妻と子供たちと気ままに過ごしているところへ当時の青年部長がニコニコしながら近づいてきて言いました。「暇だべ？ちょっと手伝いにこーや!!」。これを機に、名前だけの幽霊部員がため息をこぼしながら町へと繰り出します。

青年部の主な活動の一つは、雪まつりなどの町のイベントに参加し地域振興を盛り上げていくことです。近年では10年以上ぶりに開通した只見線関連のイベントや音楽フェスなどへの出店があり、部員が協力しながら取り組んでいました。

私も活動に参加するようになり、友人知人と顔を合わせ談笑したり、鉄道ファンや外国の方とも交流しながら有意義な時間を過ごす中、周りを見渡すと、おばあさんが押し車で歩く周りを飛び跳ねている孫達、昼間から景気よく飲むおじさん達、20年前の面影が消えた同級生、程よい混み具合と賑やかさで色めき立つ只見町。久しく町のイベントに顔を出していなかったこの風景を忘れていました。

イベントが終われば、町に人がいないような錯覚を起こしてしまう程に静かな田舎町に戻りますが、イベントで楽しげに行きかう観光客や地元民の姿を眺めている機会が増えてくると「人がいない田舎町」という感覚が薄れていきました。

ため息をこぼしながら参加していた私がいつしか青年部の活動に進んで参加するようになりました。しかし、地域振興という意識はまったくなく、ただ賑やかな催し物に参加しているという感覚でした。

そんな、やや浮ついている私に転機が訪れます。それは今年の「只見ふるさと雪まつり」でした。

青年部はイワナの唐揚げと射的の出店で参加しました。準備は、想像よりもやる事が多く大変でしたが、出店準備を進めていく中で、青年部全体に「絶対成功させよう」という熱気を感じ、「私も少しでも貢献できたら、いや、ここで貢献しなくては男が廃る」と思い、出来る事はしっかりとやりきりました。

私は射的ブースを担当しました。当日は、射的に来た子供たちと一緒に、私自身も楽しんでいました。その中で、観光客の親子が来られ、こんな会話をしました。

「雪像がすごいですね。何度も只見線のニュースを見ている内に行きたくなくて、初めて只見の雪まつりに来ました。」「足を運んでもらってありがとうございます。でも今年は暖冬で雪像のサイズが小さくなっちゃいました。」「そうなんですか？間近で見ると迫力があってビックリしました。来年も来ます。」「是非お待ちしております。」「はい、また子供と一緒に遊びに来ます」

恐らく、どこのブースでもあるようなちょっとした会話でしたが、この親子が帰る後ろ姿をみて、今ここに立っていなければあの親子とも出会っていないし、交流もない。たいした魅力があるとも思っていなかった地元で感動してもらい、なんだか感謝されたような気分になったことを感じました。

少し宙を仰いで、下に目をやると、子供たちが笑顔で一喜一憂しながら楽しんでいる。「頑張って準備してきてよかった。」「出店に参加できてよかった」と達成感が胸にこみ上げてきました。

雪まつりイベントに青年部が参加したことで、来場人数、満足度、リピート率といった数字で地域に貢献できたかは分かりません。しかし、地元を思う気持ちと熱気を帯びた行動力が、間違いなくそこにはありました。

かつての幽霊部員が気付き始めます。熱気を持った人間から熱気が伝染することで一人一人に勢いが生まれ、先細りしていくはずの町が活気づく。

地域振興に何の意欲もなかった幽霊部員が熱気を帯びた事で、今、胸を張って活動をしています。これからも全力で、楽しみながら、熱狂的に只見町を盛り上げていきます。

全国大会の出場権を獲得

三瓶叶翔さん「第32回福島県ジュニア空手道選手権大会」優勝

「第32回福島県ジュニア空手道選手権大会」が4月21日に、郡山市で開かれ、中学3年男子中量級で三瓶叶翔さん（只見中3年）が優勝しました。

三瓶さんは、「決勝戦は同じ道場の実力差の無いライバルと当たり、優勝もかかっていたので、気合を入れ直し決勝にのぞみました。優勝することができましたが、全国大会もあるので、より上を目指して頑張りたいです」と次への意気込みを話しました。

今大会の優勝者は、来年開催予定の「カラテドリームフェスティバル2025全国大会」の出場権を獲得し、三瓶さんは出場を予定しているとのことです。

三瓶叶翔さんが所属する日本空手道神居塾只見同好会では会員を募集中です。興味のある方は、次の問合せまでご連絡ください。（問合せ：090-8842-5770 只見同好会責任者：三瓶）



▲叶翔さんは、中学校に進級する頃から只見同好会の指導者も務めており、所属している子どもたちの尊敬の的になっています

県総体ソフトボール南会津郡大会 只見ベアーズ優勝を飾る



▲抜群のチームワークで優勝を飾りました

「第77回福島県総合スポーツ大会ソフトボール競技スポーツ少年団男子の部 南会津大会」は、5月3日、4日に開催され、只見ベアーズが優勝しました。

また、南会津大会で優勝した只見ベアーズは、6月1日、2日に田村市運動公園で開催される県大会へ出場し、ベスト8入りをしました。

只見ベアーズは、只見町、檜枝岐村、旧伊南村の子どもたちが参加する合同チームです。

親子で楽しい時間を過ごす

第1回「かるがもクラブ」開催

今年度第1回目の「かるがもクラブ」が、5月10日に保健福祉センター保健室で開かれ、5組の親子が参加しました。

始めに、親子で曲に合わせて遊んだりしながら、触れ合いを楽しみ、その後、ダンボールのバスに乗ったり、棒をくぐったりして風船を取りにいったりなどをしながら、親子の時間を楽しみました。

次回以降の開催日については、お知らせばんでご案内いたします。たくさんのご参加お待ちしております。



▲民生児童委員の方にも参加していただき、親子でかるがもクラブを楽しみました

只見線の歴史を絵本に 絵本「只見線ものがたり」発行

新潟県魚沼市出身の^{おの がわさん し}小野川三四さんが作成した紙芝居「只見線ものがたり」が絵本になりました。

絵本は両開きとなっていて、右から読むと「越後編」、左から読むと「会津編」となります。

作者である小野川さんは、只見線をテーマに魚沼市側の歴史を基に紙芝居を作成し、只見線沿線で読み聞かせを行っていました。2022年に福島県側の「会津編」が完成し、2年前の町文化祭で披露されました。披露された紙芝居はとても好評でした。

町は、紙芝居の内容を広く周知し只見線への理解を深める目的から、「越後編」、「会津編」を1冊の絵本として発行したい思いを小野川さんに相談したところ、承諾をいただき、この度発行となりました。

絵本は、「子どもたちも含めた沿線の方々に只見線をさらに深く知ってほしい」との小野川さんからの思いもあり、町から只見線沿線の小中学校に寄贈しました。

問合せ：只見町交流推進課（TEL：0241-82-5240）



▲絵本は非売品ですが、町内公民館の図書室にありますので、ぜひご覧ください

大自然を体験しました 手植え体験 開催



▲参加者同士の交流も行われ、楽しい手植えとなりました

只見米ブランド協議会主催の手植え体験が5月11日に深沢集落内の田で行われ、参加者と関係者を合わせて、約40人が参加しました。

参加者は、始めにガジ棒引きを行い、手植えをするための線を引きました。その後、只見米ブランド協議会メンバーの株式会社RISE SAPEURの目黒大輔さんから、手植えの方法を教わり、田の感触を楽しむなど、和やかな雰囲気で行われました。

当日は気温が高く、参加者は「田んぼがひんやりしていて気持ち良かったです。稲の成長が楽しみです」と話しました。

秋には手刈りイベントを予定しています。

登山シーズン到来 要害山 山開き

只見四名山の1つである要害山が5月12日に山開きとなりました。

当日は、新国副町長から参加者歓迎のあいさつの他、登山バッジの配布などが行われました。

只見四名山と恵みの森、癒しの森の登山者を対象に「自然首都・只見満喫チャレンジキャンペーン」を実施しています。

さらに、新潟県三条市と連携で「八十里越七名山 山&湯巡りキャンペーン」を開催しており、各市町の山の登頂と、対象施設の入浴をセットにしたスタンプラリーを実施しております。

山開き及び各キャンペーンの詳細については、只見町インフォメーションセンター（0241-82-5250）にお問い合わせください。



▲瀧神社横を抜け、要害山山頂を目指す参加者

春植物の花や果実を観察しました「野生植物の花観察会」開催

只見町ブナセンター主催「野生植物の花観察会」が4月27日に余名沢の森で行われ、18人が参加しました。

今春は残雪の少なさと季節外れの高温で、例年より植物の生長が早く、カタクリなどの春植物の花は見頃が過ぎていたものの、金平糖に似たキクザキイチゲの果実など、興味深い結実の様子を観察することができました。スギ・ナラ・ブナそれぞれの林で春植物の生育状況も異なり、その要因についても理解を深めました。



▲野生植物の花観察会に参加した皆さん



▲ブナ林の新緑観察会に参加した皆さん

癒しの森で新緑を楽しみました「ブナ林の新緑観察会」開催

只見町ブナセンター主催「ブナ林の新緑観察会」が4月28日に癒しの森で行われ、14人が参加しました。

晴天に恵まれ、汗ばむほどの陽気の下、「戸板山眺め」までのコースを歩き、オトシブミなどの昆虫や、ゴジュウカラなどの野鳥を観察したり、オオバクロモジの香りを楽しんだりしました。

また、昨年は凶作だったブナの実が、今年は沢山の花をつけた個体もあり、秋の実りに期待できそうです。

只見線の車内で急病人が発生したケースを想定

只見線こども会議 救命体験イベント 開催

JR只見線の利活用に向けた取り組みを続けている只見線こども会議（以下こども会議）のメンバーは、只見線の安全・安心な乗車を考える体験イベントを6日に、只見公民館で開催しました。

イベントでは、東京都の日本応急手当普及員協議会（以下協議会）と連携し、只見線の大白川駅から只見駅間を走る列車内で、急病人が発生したと想定し対応を学びました。

参加者は、只見線の駅間の距離が長い所が多い点や、携帯が通じない区間がある点などを踏まえ、どうしたら安全に乗ることができるか真剣に話し合いを行いました。

今回の協議会とこども会議の連携は、昨年の「ボランティア・スピリット・アワード」の全国表彰式で、協議会とこども会議のメンバーである角田杏さんが文部科学大臣賞を受賞しており、角田さんから協議会代表理事の芹澤零音さんに共同事業を提案したことがきっかけになったそうです。



▲救命処置を体験する参加者